

## 野生動物による農作物被害を防ぐには

### <柵の管理 一下からの侵入>

NO.9

サルやイノシシ等による被害を防ぐために、県内各地で柵が設置されています。

この柵は費用と効果のバランスを考慮して設計されているため、絶対に動物が通れないように作られたものではありません。

柵の効果・維持には定期的な管理が必要で、実際に行われている事例を紹介します。

#### ☆地際を柱で補強する (効果大)

イノシシは柵の下をくぐったり、トンネルを掘ったりすることで、中へ侵入しようとします。金網は容易に変形させられてしまうので、柱を地面に沿って追加設置し、地際部分の強度をあげます(写真1)。



(写真1) 金属ネットの下から潜られないよう、竹を柵下にワイヤーで固定している。



(写真2) 周辺にある石を利用するため、手間はかかるが再度穴を開けられることが多い。

#### ☆<sup>じまわ</sup>地際を石で封鎖する (効果小)

イノシシが柵の下を掘り、くぐり抜けるため、これを石などで封鎖する方法です(写真2)。イノシシは一度侵入した場所をしつこく通ろうとし、石くらいなら容易に移動させるため、効果はあまり高くありません。(参考:イノシシの持ち上げ能力は70kg程度)

#### ☆トタンやワイヤーメッシュで柵を補強する (効果大)

強度の高いトタンやワイヤーメッシュを使用すると、地際からの侵入は防ぎやすくなります(写真3)。しかし、これで絶対に侵入されなくなるわけでないので、定期的な見回りは欠かせません。

管理を放棄すると、柵は全く機能しなくなります。写真4のように侵入された場合は直ちに修繕することが重要です。



(写真3) 柵の外側からトタンを追加設置している。イノシシの目隠し効果もある。



(写真4) イノシシに持ち上げられ、30cm以上の隙間ができた柵。